

高田馬場駅周辺エリアまちづくり検討委員会（第1回）

議 事 概 要

1 日 時

令和2年11月18日（水）15時30分～17時00分

2 場 所

四谷スポーツスクエア 多目的ホール

3 議 事

- （1）現況・課題について
- （2）まちづくりコンセプト（叩き台）について

事務局より議事について説明し、議論を行った。主な意見は以下のとおり。

（1）現況・課題について

- まずは駅や駅前広場周辺の歩行者流動を、実態を踏まえておおまかに整理するべき。
- 鉄道の課題について、バリアフリールートは移動等円滑化基準に基づき1路線確保している状況であるが、「バリアフリーのさらなる整備」が挙げられているので、具体的に想定しているルートを明示するべき。
- 駅前広場について、解決すべき課題がいくつかあるが、その中でも優先順位を整理するべき。今は駅の東側に偏っているが、駅の北側や西側も含め、機能の役割分担が必要である。北側、西側、東側の各ゾーンが持つ特性が明確になれば、駅前広場の配置の議論が深まる。
- 駅前通りをどう扱うかが鍵になる。将来の車両交通量がどれぐらいになるかによって駅前広場の規模や歩行者空間の形が決まる。
- 開発と基盤整備の順番をしっかりと考えるべき。

(2) まちづくりコンセプト（叩き台）について

- 高田馬場として特徴的なもの、ここでしかできないもの、あるいは欠けているから補わないといけないものが、今の案では分かりづらい。みんなが共感できる書きぶりが良い。例えば、「学生やハンディキャップのある人たちと一緒にまちをつくる」とすれば、他の都市にはない活動が生まれる。
- 今のコンセプトワードは全国どこでも通用する言葉。もう少し踏み込んで、世界に通用するキャッチフレーズを考えるべき。丸の内、新宿、渋谷、池袋等とは異なる、高田馬場らしさを表現できると、次につながり、空間・機能も検討しやすくなる。みんなに染みついているものをもう少しコンセプトで表現した方が、多くの人たちに共感してもらえるのではないか。
- まちづくりのコンセプトの中に交通戦略の考え方も盛り込むべき。人、公共交通又は自動車の優先順位をつけた方が今後の検討を進めやすい。これからは人を中心としたウォーカービリティの時代となるので、まず人から考えなければならず、次いで公共交通や物流、最後に一般車の順位になるのではないか。
- 高田馬場は細街路が非常に多い。駅前だけでなく周辺の細街路も活かすことが大事。これらに様々な魅力的な施設を組み合わせさせた結果、ダイバーシティ（多様性）の魅力が出せると、高田馬場らしさにつながる。

以上